

平成25年3月期決算発表 補足資料

平成25年5月14日  
日本ガイシ株式会社

□ はH25/1公表値

	24年3月期		25年3月期		前期比	26年3月期		前期比
	通期 実績	構成比	通期 実績	構成比		見通し	構成比	
	億円		億円			億円		
売上高合計	2,489	100%	2,450 □ 2,528	100%	+2%	2,800	100%	+11%
<海外売上高合計>	<1,399>	56%	<1,491>	59%	+7%	<1,760>	63%	+18%
営業利益 (%)	(11%) 265		(8%) 180 □ 207		△22%	(10%) 280		+35%
電力関連事業	567	23%	578	23%	+2%	620	22%	+7%
営業利益 (%)	(-) △118		(-) △57		-	(-) △20		-
セラミックス事業	1,343	54%	1,441	57%	+7%	1,660	59%	+15%
営業利益 (%)	(25%) 333		(18%) 260		△22%	(17%) 290		+12%
エレクトロニクス事業	582	23%	511	20%	△12%	520	19%	+2%
営業利益 (%)	(8%) 49		(1%) 4		△91%	(2%) 10		+127%

セグメント間売上消去

△ 2

△ 2

-

		売上高比		売上高比	前期比		売上高比	前期比
経常利益 (%)	291	(12%)	190 □ 220	(9%)	△24%	290	(10%)	+32%
当期純利益 (%)	△354	(-)	100 □ 114	(5%)	-	220	(8%)	+93%
ROE	△12.6%		4.2%			7.3%		
1株利益	△108.3円		35.0円			67.4円		
配当金(配当性向)	20円(-)		20円(57.2%)			20円(29.7%)		

設備投資	288	12%	312	12%	+8%	360	13%	+15%
減価償却費	189	8%	201	8%	+6%	200	7%	△0%
研究開発費	114	5%	113	4%	△1%	115	4%	+2%

為替レート(円/＄)

80

83

90

為替レート(円/€)

111

108

120

平成25年3月期 実績 … 前期比 増収(3期連続)、営業・経常減益(2期連続)、純利益 黒字化

①事業別業績概況(売上、営業利益)

【電力関連】……………増収・赤字縮小

- ・がいし 中国市場が低迷、配電は堅調。
- ・NAS 生産再開で営業損失が大幅減少。

【セラミックス】……………増収・減益

- ・自動車関連 米国・新興国での需要が堅調に推移。  
利益面では増産投資の費用先行や販売価格の低下により減益。

【エレクトロニクス】…減収・減益

- ・金属、半導体製造装置用製品 市況の悪化が継続し減収減益。
- ・電子部品 需要減や競合激化により売上高、利益とも大幅に減少。

為替影響 : 前期比 売上 +14 億円、営業利益 +1 億円  
(前期 80 円→当期 83 円/\$、111 円→108 円/€)

②営業外損益(前期比 13 億円悪化) : NAS安全対策引当金の追加(28 億円)

③特別損益(前期比 568 億円改善) : 投資有価証券評価損(30 億円)  
中国子会社の固定資産減損損失(22 億円)  
(前期はNAS安全対策費用 611 億円を計上)

④配当 期末 10 円(中間 10 円とあわせ年間 20 円)

平成26年3月期 見通し … 前期比 増収・増益

①事業別業績概況

【電力関連】

- ・がいし 中国市場の低迷継続。その他海外需要や国内の取替需要により全体横這い。
- ・NAS 海外案件の出荷(アブダビ 当期～、イタリア 来期～)を見込み、赤字縮小。(別紙参照)

【セラミックス】

- ・自動車関連 米国、新興国の需要が堅調に推移し増収の見込み。  
利益面では、増収効果や円安影響により、生産能力増強に伴う先行費用、  
価格低下等を吸収して増益の見込み。
- ・産業プロセス 放射性廃棄物処理プラントの改補修案件が減少する見込み。

【エレクトロニクス】

- ・金属、半導体製造装置用製品 緩やかな市況回復を想定し増収増益の見込み。
- ・電子部品 シェア低下により減収、赤字拡大の見込み。

為替影響 : 前期比 売上 +118 億円、営業利益 +37 億円  
(前期 83 円→当期 90 円/\$、108 円→120 円/€)

1 円当たりの影響 \$(売上 9 億円、営業利益 2.3 億円)、€ (売上 4 億円、営業利益 1.4 億円)

減価償却費 : 前期 201 億円 → 当期 200 億円※  
※国内の償却方法を海外と同じ定額法に変更。影響は償却費減 30 億円。

②配当予想 中間 10 円、期末 10 円(年間 20 円)

	24年3月期 第2四半期累計期間		25年3月期 第2四半期累計期間		26年3月期 第2四半期累計期間		前期比
	実績	構成比	実績	構成比	見通し	構成比	
	億円		億円		億円		
売上高合計	1,228	100%	1,217	100%	1,350	100%	+11%
<海外売上高合計>	<703>	57%	<711>	58%	<850>	63%	+20%
営業利益(%)	(13%) 158		(9%) 113		(9%) 120		+6%
電力関連事業	280	23%	268	22%	290	21%	+8%
営業利益(%)	(-) Δ 45		(-) Δ 43		(-) Δ 15		-
セラミックス事業	635	52%	685	56%	800	59%	+17%
営業利益(%)	(26%) 163		(21%) 143		(16%) 130		Δ9%
エレクトロニクス事業	314	26%	265	22%	260	19%	Δ2%
営業利益(%)	(12%) 39		(5%) 13		(2%) 5		Δ63%
セグメント間売上消去	Δ 1		Δ 1		-		
		売上高比		売上高比		売上高比	前期比
経常利益(%)	147	(12%)	80	(7%)	100	(7%)	+25%
四半期純利益(%)	109	(9%)	12	(1%)	80	(6%)	+594%
設備投資	130	11%	149	12%	180	13%	+21%
減価償却費	90	7%	95	8%	95	7%	Δ0%
研究開発費	53	4%	54	4%	55	4%	+2%
為替レート(円/\$)	82		79		90		
為替レート(円/€)	115		101		120		

## 伊大手送電会社とNAS電池システム供給に関する基本契約に合意

日本ガイシ株式会社（社長：加藤太郎、本社：名古屋市）はイタリアの大手送電会社であるテルナ（Terna）社と、電力貯蔵用NAS（ナトリウム硫黄）電池システムの供給に関する基本契約に合意しました。本件は欧州で初めて電力系統に大容量蓄電池が導入される案件となります。

テルナ社との基本契約は、同社がイタリア国内の送電系統に導入するNAS電池システムを、最大で出力7万キロワット（7時間放電で容量49万キロワット時）供給するものです。この内、初回分として3万5千キロワット（同24万5千キロワット時）のNAS電池システムを、約1億ユーロで受注する予定です。

欧州ではCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減するために、2020年までに再生可能エネルギー発電の比率を20%まで引き上げることが決まっており、テルナ社によると、イタリアでの2012年の発電量は、太陽光発電が前年比72%増、風力発電が同34%増と大幅に増加しています。

テルナ社は、再生可能エネルギーの最適利用のために同社が保有する送電系統の変電所にNAS電池システムを導入し、電力需給変動への即時対応や電力系統の安定化を図ります。気象状況の影響を受けやすい再生可能エネルギーの大量導入による電力系統の変動を、NAS電池システムの大容量電力貯蔵能力によって平準化し、電力供給の信頼性を確保する予定です。

### テルナ社（Terna S.p.A）の概要

本社所在地：イタリア、ローマ

設立：1999年（電力自由化により伊大手電力会社エネル（ENEL）から独立）

事業内容：送電線（63,500キロメートル以上）の保有、管理、運用

従業員数：約3,500人

代表者：CEO フラビオ・カッタネオ（Flavio Cattaneo）

### アラブ首長国連邦向けNAS電池システムのプロジェクト再開について

2009年にアラブ首長国連邦（UAE）のアブダビ水利電力庁から受注したNAS電池システムについて、出力30万キロワットを6万キロワット（6時間放電で容量36万キロワット時）に契約改定することに合意しました。2013年度から出荷を開始する予定です。